

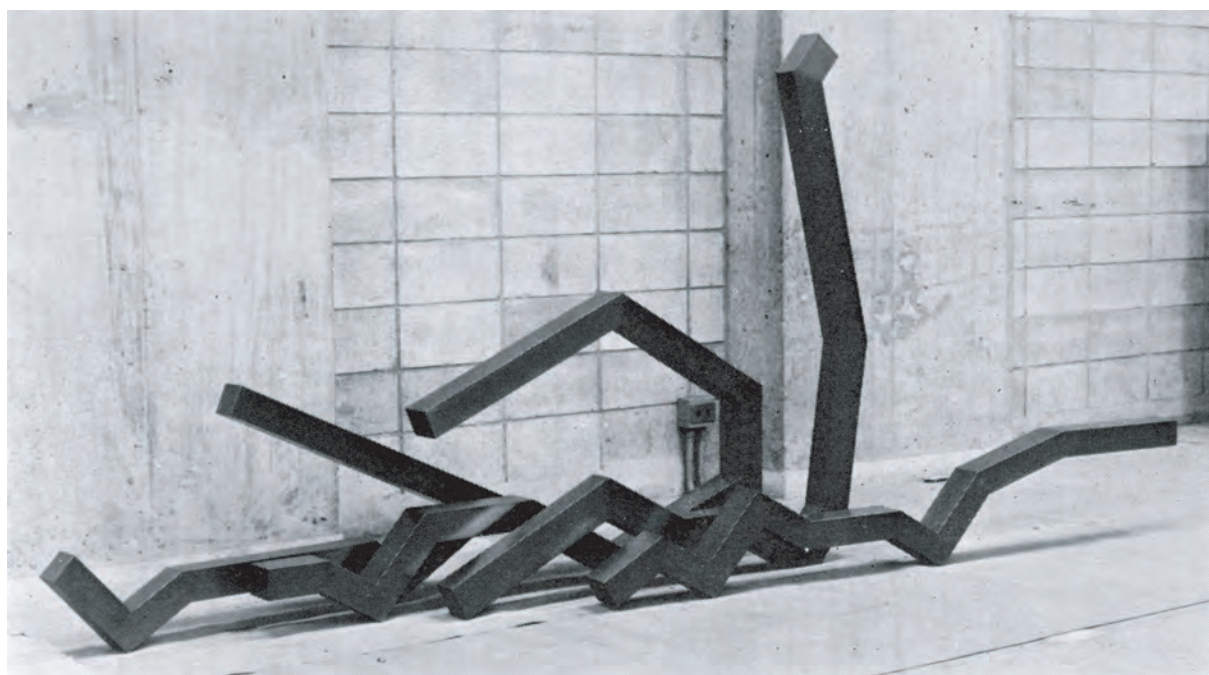
『私を創ってくれた3つの作品』

スペースデザイン部会員 野口 育郎

私は 1982 年 大学を卒業した年に初めて新制作展に出品しました。第 46 回展です。

その年大学を卒業後同校でスペースデザイン部の会員で教授をなさっておられた小野 襄氏の研究室に研究生として所属させて頂くことになりました。但し毎年の新制作展への出品が条件でした。

【作品 1】



1982 年 流

大学で専攻していたのは建築です。それも工学部系でしたので造形やものづくりに関する知識も技術もありませんでした。大学 4 年の夏休みに同大学に講師としていらした日高 単也氏と小野 襄氏の作品制作を手伝わせて頂いたことがものづくりへ足を踏み入れるきっかけになりました。その時造形素材としての合成樹脂を初めて扱いました。

合成樹脂、いわゆるプラスチックは様々な製品として私たちの身の回りに溢れています。

従来より射出成型の製品や型材としての樹脂素材はあったそうですが、小野 襄氏が造形材料としての樹脂を初めて考案されたとのことでした。

特殊な設備や機材を用いず日頃作品制作を行っている工房で、まして常温での制作が可能ということに驚きました。

この作品は樹脂の積層法で製作しました。樹脂を積層しガラス繊維で補強して形を作り維持します。

研究室の先輩の方々にアドバイスをもらい助けて頂きながら初めて制作した 1:1 の造形作品です。

【作品 2】



1993年 街

これまでの作品は平面構成作品の一部を立体として捉え形にしていました。

この作品は実験的と言えば聞こえはよいのですが少々はちゃめちな感じです。

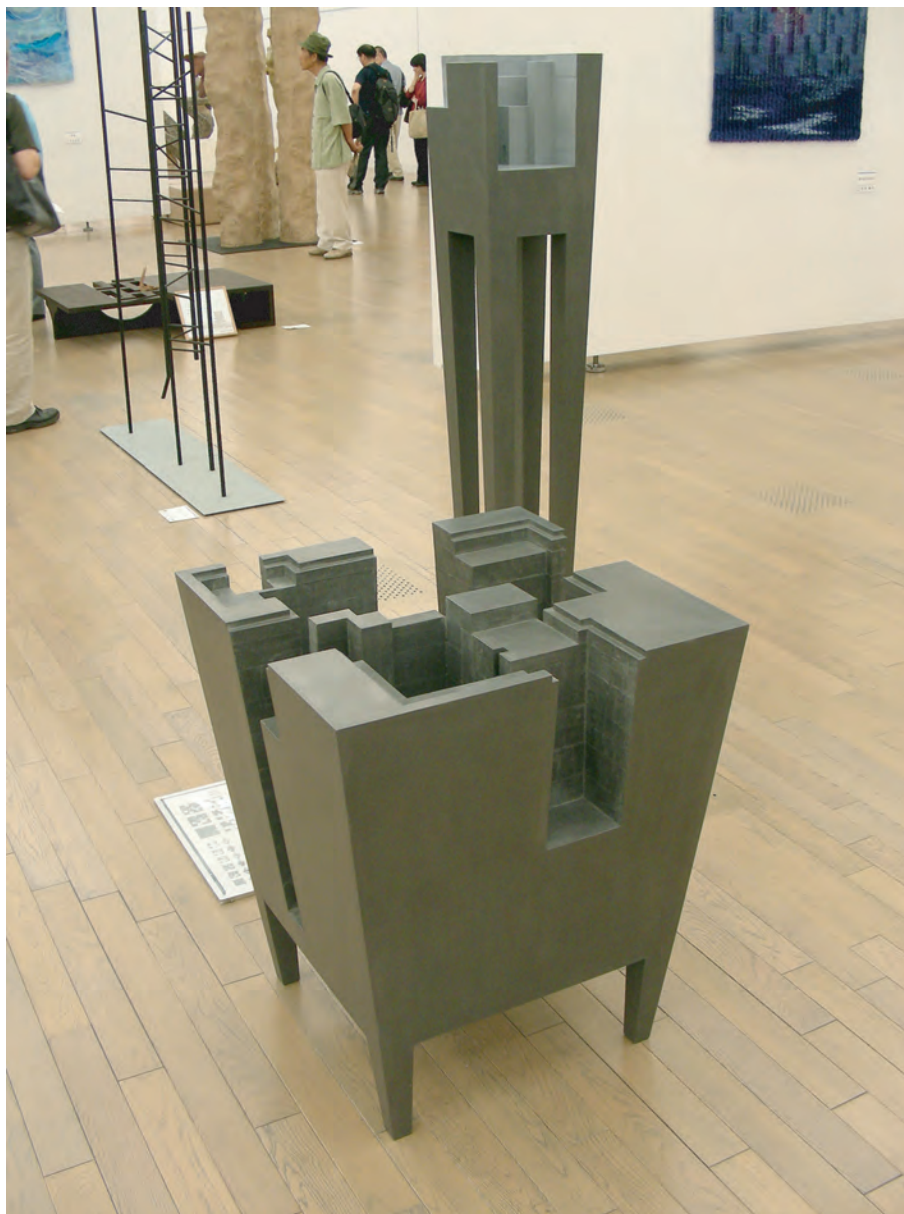
発泡材の大きな塊の上に熱した金属片を置きます。当然金属片は発泡材を溶かしながら沈んで行き重力により下へ下へと不規則な軌跡を取りながら落ちて行きます。その金属片が動いた通り道を形にしました。

地中の蟻の巣に見える形にしたようなものです。

工法を含め制作にはデザインを試みましたが形自体のデザイン性は乏しいものでした。

ただこの作品以降何か縛られていたものから少し自由になったような気がします。

【作品 3】



2010年 白い舎

この作品の数年前から作品の中に家具的な要素を組み入れたらと思い制作していました。

展覧会出品後の作品は実際に今でも自宅でテーブルとして使っています。

平面構成を基に立体作品を制作することは従来から行って来た事ですがこの作品は型を形としました。

少々分かり辛いでしょうか。

まず雄型となる原型を作りそれを基に雌型を作ります。作品はその雌型です。形状の予測は多少付きますが型を外すと予期せぬ形が見えてきます。ちょっと癖になる面白さがありました。

プラスチックと言えば多くの方々が有害な化学物質やチープなものといった印象をお持ちということは否めません。しかし造形素材としての一面も知って頂ければと思います。



- 1959 東京都生まれ
- 1981 日本大学生産工学部建築工学科卒業
小野襄造形研究室に所属 新制作展初出品
- 1988 新制作展 新作家賞受賞（同' 89年受賞）
- 2000 新制作協会 会員推挙 他、グループ展等を開催